見ごろ・食べごろ人類学

断食をして天国に行こう

山本 博之
（やまもと ひろゆき）
地域研究企画交流センター

断食月に入り、夜明け前の暗いうちから家族で食事

居候も断食

ボルネオ島北部のコタキナバル市（マレーシア・サバ州）にあるブルネイ人家庭に居候していたときのことだ。ブルネイ人はすべてムスリム（イスラーム教徒）なので、年に一度、断食月がある。居候を始めたときから、断食月がきたら私も一緒に断食するという心積もりをしていた。

断食月には日の出から日没までのあいだは飲まず食わずとなるが、飲食だけの話ではない。そのほかにも、ふだんなら金曜日以外は家でおこなっている夕方の礼拝を毎日モスクでおこなうし、宗教的な行事も増える。私はムスリムではないので断食する義務はないし、モスクでの礼拝には参加できないので単なる絶食にしかならないとは思ったが、せっかくの経験だからと絶食の部分だけでも断食に参加することにした。断食には、全世界のムスリムが同時に飢えを経験することで、連帯感を増す意味があるという説明を聞いたことがあったので、全世界のムスリムとの連帯感はともかく、一緒に断食を経験することで居候先に家族の一員として受け入れてもらえるかもしれないという期待があった。

近所の屋台で日暮れ後に食べる物を買って帰るパパ

断食明けにふるまうための菓子を準備するママ

断食月の初日。夜明け前の朝四時に起こされて、四時半ごろに家族全員で食事をとった。メニューはふだんの夕食と同じで、ご飯に焼き魚と野菜炒めとスープという普通の食事だった。この時点で、家族は私が断食に加わると思っていなかったらしい。朝食の後、部屋に戻って朝までもう一眠りしているあいだに、ママ（お母さん）がコーヒーとビスケットを載せたお盆をこっそり私の部屋に差し入れてくれた。せっかくだけれど好意だけいただくことにして、お盆はそのまま台所に戻した。こうして私の断食が始まった。

家族みんなで空腹感?!

非ムスリムも多く住むコタキナバルでは、断食月でも食堂や喫茶店が普通に開いており、日中から人目につくところで食事をしている非ムスリムもたくさんいた。空腹なのはそれほどつらくなかったが、なかなか慣れずに苦しんだのはむしろ昼間ずっと眠いことだった。

断食月になると、近所の商店街の駐車場には食べ物の屋台がたくさん並び、仕事の帰りに買い物する人でごった返していた。パパ（お父さん）や私がそれぞれ帰りがけに屋台で食べ物を買って帰ったので、絶食の禁が解ける日暮れ後の食卓にはさまざまなものが並んだ。ピンク色の甘いシロップ、甘いコーヒーという二種類の飲み物とナツメが、私の居候先での日暮れ後の食事に欠かせない品だった。そのほかにはフライドチキンや焼きそばや菓子や果物など、もらったり買ったりして、その日に手に入った食べ物は何でも食卓に並んだ。

私がムスリムでもないのに断食に参加したことは、家族にはどうにも理解しにくいようだった。みんなが食べていないのに自分だけ食べるのは気がひけるという説明では納得してもらえなかった。というより、家族みんなで空腹感を共有するのかと思っていたら、そんなことは全然なかったのだ。私の妹分にあたるパパの娘たちは、断食月が始まって数日経つと、体調が悪いとかこれから一年間かけて分割払いで返すとか理由をつけて断食をやめてしまい、まだ日が高いうちから家のなかで麺をゆでて食べるようになった。三人いる妹たちは次々と断食をやめて、ついに断食しているのは、パパとママと私の三人だけになってしまった。

勤めを果たして

ママは断食に参加した私を見て、「異教徒がイスラーム教に入ると、それまでの罪が全部帳消しになるから得なんだよ」と改宗を誘った。それはママにとっても望ましいことだったようだ。「異教徒をイスラーム教に入れると、入れた人の徳がひとつ上がるんだよ」と教えてくれたママは、若くして亡くなった息子のために徳を積むんだといって、断食月が終わった後も一人で何日か断食を続けていた。

パパの方は、私を積極的にムスリムにするつもりはないようで、「イスラーム教に入ったら毎日ちゃんと礼拝しなければいけなくなるんだ」と言うだけだった。ムスリムでもないのに断食の真似事をしている私に腹を立てているのかと思ったが、どうやら別の方向に腹を立てていたらしい。「ムスリムなのに礼拝の勤めを果たさない連中を見ると、それが家族でも腹が立つんだ。でも、最後の審判のときには、たとえ家族でも助けあえないとクルアン（コーラン）に書いてあるから放っておくしかない」と言うパパは、自分自身に言い聞かせるように「私はちゃんと義務を果たしているから天国に行けるんだ」とつけ加えた。

天国とはどんなところなのかパパに尋ねてみた。「天国には食べ物がたくさんあるし、仕事をしなくてもいい。それに何よりも、天国では毎日の礼拝をしなくてもいいんだ」と待ち遠しそうな様子で語るパパを見て、この家ではまわりと違うことを理由に仲間外れにされることはなさそうだと少し安心した。

日暮れ後、知り合いの家を相互に訪問し合う

夕方になるとさまざまな食べ物の屋台が並ぶ

断食月が明けると墓参り。掃除をして聖典を読む

断食明けの礼拝。この日は大人も子どもモスクに集まる